

Antimicrobial Copper

Cu⁺

TM

Antimicrobial Copperは、
医療関連団体向けの抗菌
ニュースレターである。

7月号
2012年No. 3

院内感染予防仕様の病院が 日本に登場



九州の千代田病院、新病舎建設に伴い、 ドア付属品を抗菌製のものに一新。新規 建設の病院としては世界初。

これは、新病舎（200床）の近くにある旧病舎での細菌汚染試験を経て、ドアの取っ手・レバーに黄銅（銅合金）を採用することにしたものである。

2010年に開始したこの細菌試験*では、ドア付属品表面の細菌負荷（特にブドウ球菌）の軽減効果について、ステンレスと比較して抗菌銅の方がはるかに優れていることが証明された。

千代田病院のオーナー兼理事長の千代反田晋氏によれば、感染サイクルを断ち切ることが抗菌銅導入の目的であるという。

「この二年間、銅製品の効能を調べてきた。この試験で抗菌性が証明されたことはもちろんだが、医師や看護師が銅の抗菌性についての理解を深めるきっかけにもなった」



In this Issue

院内感染予防仕様の病院が
日本に登場 P.1

豪州の病院が
抗菌銅を導入 P.2

シンガポールでも
院内感染が問題化 P.2

豪州、Cディフィシルで
死亡例 P.2

台湾で抗菌銅製の聴診器
の販売開 P.3

インドの企業、国内企業として
初めてCu+に参加 P.4

豪州の病院が抗菌銅を導入

オーストラリアの病院、感染対策の一環として環境表面に抗菌銅合金を採用。国内初。

メルボルン市南東郊外のサンドリンガム病院(105床、一般診療、急性疾患診療、当日診療、地域診療、外来診療、診断対応)。総額600万ドルの改良工事の一環として事故救急部門を改装・拡張中である。

この改装・拡張では、ドア付属品、戸棚扉の付属品、手すり、枕元に位置する医療機器のカバープレート、中央照明スイッチのカバープレートなどに銅合金が選ばれた。今年の後半に新規建設部分、2013年の前半に改装部分がそれぞれオープンする予定である。

改装・拡張の設計を担当した株式会社Vincent. Crisp & Partnersの主任建築医療衛生プランナーMichael Vincent氏によれば、抗菌製品に興味を持ったのはメディアの報道がきっかけだったという。

「オーストラリアは、院内感染対策で英国や米国より進んでいるが、欧州には遅れを取っており、この面で効果が期待できる製品を採用することで院内感染の抑制に役立てたいと考えた」

「機能面で変わらないのであれば、ステンレスなどよりも抗菌製品を選ぶのに躊躇はなかった」

豪州、Cディフィシルで死亡例

ビクトリア州(オーストラリアで人口第2の州)では、2,000人近くの人が病院や高齢者施設においてスーパーバグのクロストリジウム・ディフィシル(Cディフィシル)に感染し、そのうち14人が死亡していたことが、15カ月に及んだ最近の研究で判明。

死亡原因は244と呼ばれる同細菌の変異株ではないかと保健当局ではみている。244はメルボルンにある4つ以上の大手病院、さらにはニューサウスウェールズ州や西オーストラリア州においても、その存在が疑われている。

クロストリジウム・ディフィシルは世界中の病院で確認されることが多くなっているが、その変異株は重篤な疾病を引き起こしており、英国、米国およびカナダでは幾千もの命を奪っている。

シンガポールでも院内感染が問題化

シンガポールでは入院患者の7人に1人は入院中に感染症に罹患し、その5割が薬剤耐性株であることが、最近の研究で判明。

院内感染に罹患した場合、「通常の」感染症の場合と比較して、入院日数が6日、費用が8,000シンガポールドル多くかかることが明らかになった。MSRAのようなスーパーバグに罹患した場合は、入院日数が25日、費用が2万シンガポールドル多くかかる。

この研究は、Saw Swee Hock 公衆衛生大学院 (Saw Swee Hock School of Public Health) 感染症疫学研究センター (Center for Infectious Disease Epidemiology & Research) の Hsu Li Yang博士がシンガポール総合病院およびタン・トクセン病院において実施したものである。

世界保健機関は入院患者の5~15%は入院中に予防可能な感染症に罹患するとしている。その中でシンガポールの感染率は際立っていると、Hsu Li Yang博士はみている。

この研究論文の入手先: <http://www.annals.edu.sg/pdf/41VolNo2Feb2012/V41N1p77.pdf>

Antimicrobial
Copper



台湾で抗菌銅製の聴診器の販売開始

台湾の医療器具メーカー精國醫療器材有限公司は、アジア最大級の医療機器見本市である台北国際医療&ヘルスケア見本市において、商業ベースとしては初となるCu+ブランドの聴診器を発表した。

この聴診器はチェストピースと耳管に抗菌銅合金を採用しており、汎用と循環器用がある。同社は現在世界中で販売を行っており、この聴診器の売れ行きが好調になれば、他の製品にもCu+ブランドを拡大することも視野に入れているという。

同社では、Antimicrobial Copperを患者と医療関係者の安全性を向上させる手段として、また聴診器市場における画期的製品として位置づけている。

参照URL：<http://www.ckspirit.com.tw/>



(一面からの続き)

「患者の手などが最も触れるものは何かと考え、院内感染細菌の伝染媒体となり得るドア付属品に着目した」と千代反田氏は述べた。このドア付属品を製造・販売したのは日本の建築金物メーカーの大手、株式会社ユニオンである。二年前、八王子市のめじろ保育園が導入した様々な抗菌銅合金製のものも、同社の製品である。

北里大学の笹原武志博士の協力を得て実施した試験。笹原博士は北里大学病院において、人体が触れる表面と触れない表面に関する5年越しの研究を完成させた。その研究論文「銅および銅合金による病院内細菌汚染の低減化—医療関連感染対策への展開—」は、昨年北京で開催された第1回世界微生物会議 (Annual World Congress of Microbes) で発表された。

Antimicrobial
Copper



インドの企業、国内企業として初めてCu+に参加



インドの主要メーカーCopper Front社、Antimicrobial CopperのCu+ロゴを使用する契約を締結。国内初。

製造業・輸出業において30年以上の実績を有する同社は、銅製の医療衛生関連製品やキッチン・生活用品を製造・販売している。

国際銅協会の一員であるインド国際銅振興協会 (International Copper Promotion Council India) と結んだCu+のブランド契約において、Copper Front社はすべての医療衛生関連製品にCu+のマークを入れることになっている。具体的には、点滴スタンド、トレイ、ベッドテーブル、カート、ドアハンドル等の各製品である。

同社のストラテジスト兼コミュニケーション部長のAnkit Kothiwal氏は言う。「我々が医療衛生部門で求めていたもののが答えがまさしくAntimicrobial Copperであった」

「これは素晴らしいパートナーシップであり、インド市場初ということも嬉しい。当社が製造する家庭や公共スペース用の製品にもCu+ブランドを拡大できるか検討したい」



参照URL: <http://www.copperfront.com/index.html>

www.antimicrobialcopper.com

Antimicrobial
Copper



本ニュースアラートは、アジア銅センターが、International Copper Association社の50周年(1959-2009)を記念し、同社と提携し配布するものである。

国際銅業協会
International Copper Association Ltd.
260 Madison Avenue 16th Floor New York,
NY 10016-2401
www.copperinfo.org

アジア広報課渉外係

Australia & Oceania Contact Mr. John Fennell, john.fennell@copperalliance.asia
China Contact Ms. Flora Fu, flora.fu@copperalliance.asia
India Contact Ms. Savita Gupta, savita.gupta@copperalliance.asia
Japan Contact Mr. Masahiko Wada, mswada@jcda.or.jp
South Korea Contact Mr. Chris Lee, chris.lee@copperalliance.asia
Southeast Asia Contact Ms. Mun Wun Ee, wunee.mun@copperalliance.asia
Taiwan Contact Mr. Charles Lee, charles.lee@copperalliance.asia

銅は、動植物が生命を維持するために不可欠な無機性栄養素である必須元素とされている。銅はまた、半貴金属とみなされている。

銅、黄銅、および青銅は、院内および地域感染の原因となる「スーパーバグ」MRSAなどの病原菌を殺菌する。

米国環境保護庁(EPA)は、抗菌銅合金を、公衆衛生効果を持つ材料として登録することを認めた。

この登録は、銅、黄銅、および青銅が有害致死バクテリアを殺菌する有効性を認めるものである。銅はEPAによって初めて登録されたこの種の固体表面材料であり、その効果は大規模な抗菌効果テストによって実証されている。